

「第 7 回眼科サマーキャンプ」報告

初期研修医・医学生に眼科の重要性や先進性を啓発することを目的に 2012 年(平成 24 年)夏に始まった眼科サマーキャンプは今年で 7 回目となりました。7 月 28 日(土)から 29 日(日)まで、千葉県木更津市のかずさアカデミアパークにおいて全国から臨床研修医と医学生を迎えて眼科サマーキャンプを開催しました(図 1)。

年ごとに申込み数が増加

2016 年に 208 名、2017 年に 233 名であった申込み数は、今年は 279 名と最多となりました。内訳は初期研修医 2 年目が 119 名、1 年目が 77 名、医学部学生 6 年生が 29 名、5 年生 54 名です。逆にキャンセル者はこれまでで最も少なく 55 名となり、参加がかなわなかった申込者が 46 名となりました。最終的に初期研修医 2 年目が 70 名、1 年目が 39 名、医学部学生 6 年生が 20 名、5 年生 49 名、性別では男性 97 名、女性 81 名の合

計 178 名が参加となりました。

順調な滑り出しにみえたのですが、直前に思いもかけず台風が到来しました。6 月末から 7 月にかけての記録的豪雨もまれなことでしたが(これは「平成 30 年 7 月豪雨」と名付けられたそうです)、台風 12 号が過去にほとんど例のない経路をたどって 7 月 28 日(土)に関東を直撃する予想となりました。日本眼科医会、日本眼科医療機器協会、日本眼科学会の三者協議を経て、「開催」が決まりました。すべての参加者が安全に到着することを念じ、医療機器の搬入・搬出に問題が生じないかを懸念しながらの開始となりました。

プログラム

プログラムは初日が体験型実習と懇親会、2 日目が講演となっています。世話人に加えて公募による指導医の参加も得て、スムーズに運営することができました。以下が全体の内容です。



図 1 全体写真。



図 2 検査／治療機器体験コーナー。

1 日目／7 月 28 日(土)

ここが知りたい眼科の魅力①

マルチアナライザーコーナー

井上 幸次(鳥取大), 堀 裕一(東邦大・大森)

眼科力体験コーナー：メジカラ encounter

- ①3D 手術実見・視覚障害体験コーナー
- ②検査／治療機器体験コーナー：
後眼部 OCT, 広角眼底撮影, 前眼部 OCT,
レーザー光凝固
- ③白内障手術体験コーナー(ドライラボ)
- ④白内障手術体験コーナー(ウェットラボ)

懇親会

グループ・セッション眼科の本音力：

メジカラ intimate

(4 グループに分かれて指導ドクターと参加者が語り合う)

- ①スペシャリストの魅力
- ②眼科手術上達の秘訣はこれだ！
- ③留学生活や研究はこんなに楽しい！
- ④趣味を生かせる眼科医ライフ

2 日目／7 月 29 日(日)

WOC2014TOKYO 記念短編映画「Vision of Life」視聴

全体写真撮影

眼の根源力：メジカラ fundamental

視覚の不思議

仲泊 聡(理化学研究所)

スペシャリストの魅力

大鹿 哲郎(筑波大)

眼科力の現況：メジカラ in the present

眼科専門医制度の概略

坂本 泰二(鹿児島大)

数字で見る眼科の現況

山田 昌和(杏林大)

眼科手術でここまで治る

西田 幸二(大阪大)

眼科の未来力：メジカラ in the future

iPS 細胞 基礎研究から臨床, 産業へ

高橋 政代(理化学研究所)

眼科医の生活力：メジカラ in the life(ランチョン)

眼科はここがおもしろい

近藤 峰生(三重大)

Best Choice

塚本 倫子(済生会滋賀県病院)

バラ色の暮らし

前田 利根(前田眼科クリニック)

Happy Life を求めて

外園 千恵(京都府医大)

ここが知りたい眼科の魅力②

マルチアナライザーコーナー

井上 幸次(鳥取大), 堀 裕一(東邦大・大森)

体験コーナー

検査／治療機器体験コーナー(図 2)では, 最新の眼科医療機器を体験できるようになっています。撮影した参加者自身の眼底写真等をメモリースティックに入れてお土産としています。レーザー照射の体験も記憶に残るものと思われま。3D 手術映像, 視覚障害体験(図 3), 白内障手術体験(図 4)ともに充実しており, どの参加者も真面目に取り組んでいたのが印象的でした。



図 3 視覚障害の体験.



図 4 白内障手術体験.



図 5 講演：仲泊 聡先生による「視覚の不思議」.

講演

講演は昨年までと同じテーマ、ほぼ同じ講演者であり、眼科の総力をあげての陣容です。視覚の不思議(図5)やスペシャリストの魅力を語り、専門医制度を解説し、見えることの意義や眼科の魅力を伝えています。

サマーキャンプに二度参加して眼科医となった塚本倫子先生の講演は、本キャンプの意義が伝わるものでした。



図 6 懇親会，グループ・セッション。

和やかな雰囲気にもまれていました。グループ・セッションは若手を中心に企画していただき、4つのテーマ別に指導医と参加者が語り合いました(図6)。

マルチアナライザーからみる参加者意識

1日目の最初と2日目の最後に、井上幸次先生と堀裕一先生による楽しいトークが繰り上げられました。マルチアナライザーを使ってキャンプ前後で参加者の意識を比較し、眼科志望度の上昇を確認、例年どおりに井上先生の俳句で締めくくられました。

サマーキャンプを開始して7年が過ぎ、全国であらたに眼科医になる人数は右肩上がりに増加しています。日本眼科学会の新会員のうち3分の1がサマーキャンプ卒業生という状況となりました。見方を変えれば、眼科医の卵への初期教育になっているように思われます。最後になりましたが、ご協力いただきましたすべての方に感謝申し上げます。

次は2019年3月に名称を「スプリングキャンプ」と変えて開催します(図7)。多くのご参加をお待ちしています。



図 7 眼科スプリングキャンプ2019のポスター。

懇親会とグループ・セッション

1日目、外は台風で荒れていましたが、懇親会会場は